

特定非営利活動法人 日本スポーツ栄養学会第10回大会報告

香川雅春（女子栄養大学 栄養科学研究所）

去る2024年9月21日および22日に、日本スポーツ栄養学会第10回大会が埼玉県坂戸市にある女子栄養大学坂戸キャンパスにて開催されました。第10回大会は現地開催に加えて、10月1日から1ヶ月間のオンデマンド配信も行われ、会期中の現地参加者が830名以上、オンデマンド視聴を含めた参加登録者数は1,100名以上の盛会となりました。現地では各会場にサテライト会場を準備し、市民公開講座の会場など最大で10会場が準備されました。



会場となった女子栄養大学坂戸キャンパスと第10回大会の看板

第10回という節目となる今大会では、「アセスメントと実践」を大会テーマとし、競技やアスリートが多様化している昨今、スポーツ栄養士が適切にサポート活動を行う上で必須となるアセスメントについて振り返り、その理論や手技を確認するとともに最新の知見について学べる機会を設けることを目的としました。今大会では、数多くあるアセスメントのうち 1)エネルギー代謝、2)身体計測、3)食事アセスメントに焦点を当てたシンポジウムのほか、ハイパフォーマンススポーツセンター/国立スポーツ科学センターの先生方による妊娠・産後期アスリートに対するスポーツ医科学サポートについてのシンポジウムが企画され、各分野のご専門の先生方にご講演いただきました。また今大会では、多様化が進んでいる競技種目に関連したご講演もいただくことができました。教育講演では、世界的

に競技者数が増加して国際オリンピック委員会によってオリンピック競技への検討も行われていますが、同時に選手における多くの健康問題も指摘されている「e スポーツ」について、松井崇先生(筑波大学 健幸ライフスタイル開発研究センター 副センター長)に国内の現状や選手に対する栄養の役割や効果をご講演いただきました。また「競技を知る」セッションでは、近年注目が集まっているアーバンスポーツの中からスポーツクライミングについて、女子栄養大学短期大学部卒業生で栄養学の専門家であると同時にスポーツクライミングリード日本代表選手でもある小武芽生選手(エスエスケイフーズ)に、競技の特性や健康課題、現在進められている改善に向けた方針についてご講演いただきました。

今大会の特別講演は、開催校である女子栄養大学の創立者である香川昇三と綾の長男である香川靖雄先生(女子栄養大学 副学長/女子栄養大学栄養科学研究所 所長)に、二人が日本の栄養学におけるアセスメントに果たした功績についてご講演いただきました。会期中には香川昇三・綾の生涯や業績を見学できる香川昇三・綾記念展示室も 21 日(土)に開室され、多くの参加者に香川綾が開発した計量カップや計量スプーンをはじめとする様々なアセスメント法に関する資料をご覧いただくことができました。

日本スポーツ栄養学会は日本臨床スポーツ医学会と隔年で合同シンポジウムを開催しています。2024 年は日本スポーツ栄養学会が開催を担当し、「地域における多職種連携」をテーマに元永恵子先生(国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部門 副主任研究員)、江玉睦明先生(新潟医療福祉大学理学療法学科 教授/アスリートサポート研究センター 副センター長)、森田雄大先生(宮崎大学医学部整形外科学教室 助教)、そして長島未央子先生(KAGO 食スポーツ 取締役)にご講演をいただきました。

第 10 回大会では様々な企画演題に加えて、日本スポーツ栄養学会としても複数のセッションが企画・開催されました。研究・教育支援事業運営委員会は実践活動報告や症例報告の執筆を支援するセッションを企画し、多くの参加者にとって有益なアドバイスがされました。また学会として会員同士の交流の場を設けるとともに、認定事業運営委員会による公認スポーツ栄養士養成講習の受講生による交流セッションが企画され、多くの参加者が交流を深められました。そして国際交流委員会も数年ぶりに国際交流セッションを企画・開催しました。ご講演者の都合により録画でのご講演となりましたが、100 名を超える参加があり、盛況なセッションとなりました。

会員による一般演題には口頭発表とポスター発表が設けられ、合計 107 演題(口頭発表 69 演題、ポスター発表 38 演題)が発表されました。口頭発表では前回大会と同様にマッチング希望を希望する発表者が参加者と連携が取れるよう意思表示ができる形式を取りました。今後の研究や論文執筆への発展が期待されます。また数大会ぶりに設けられたポスター発表の会場では、連日多くの参加者と発表者との間で活発な討議が行われました。これらの発表のうち、優れた 3 演題に優秀演題賞が授与されました。



優秀演題賞の記念写真

本大会では多くの企業様からのご支援をいただき、大会を盛り上げていただきました。二日間で5つのセッションが設けられたランチョンセミナーでは、身体活動や時間栄養学を考慮した栄養サポート、また身体組成や食品の健康効果に関してご専門の先生方にご講演をいただくことができました。また共催教育講演では宮下政司先生(早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授)による通訳の下、国際的な学術誌である International Journal of Obesity の編集長である David Stensel 教授(School of Sport, Exercise and Health Sciences, Loughborough University)に、論文執筆に向けたアドバイスについてご講演をいただきました。さらに健康や身体機能の維持における栄養補給の重要性とサプリメントによる可能性をテーマとしたスポンサーシンポジウムでは、田中清先生(静岡県立総合病院 リサーチサポートセンター 臨床研究部長)と清野隼先生(桐生大学・桐生大学短期大学部 講師)に骨の健康やトレーニングの観点からご講演いただきました。会場には21社による企業展示ブースが並び、各ブースを多くの参加者が訪れていました。前回大会で好評だったスタンプラリーを第10回大会でも実施し、女子栄養大学や川越ゆかりの景品が提供されました。そのほか、優秀演題賞や広告、ご寄付などに多くの企業様からご支援を頂戴し、心より感謝申し上げます。



賑わう企業展示ブース

大会では、一般市民を対象にした市民公開講座も開催されました。スポーツの現場では競技者も多様となり、その中には成人だけでなく子どもも含まれるため、第10回大会では小学生から高校生アスリートとその保護者や指導者を対象にした講演を企画しました。「ジュニアアスリートの食事と口腔衛生」をテーマに、管理栄養士の立場から上西一弘先生(女子栄養大学栄養学部 教授)に、また歯科医師の立場から上野俊明先生(明海大学歯学部 社会健康科学講座 スポーツ歯学分野 教授)にご講演いただきました。講演会には小学生を含む多くの方にご参加いただき、大変活気のあるものとなりました。

今大会の懇親会は女子栄養大学坂戸キャンパスカフェテリアで開催されました。懇親会の入り口では女子栄養大学のマスコットキャラクターと香川栄養学園香川調理成果専門学校の遠藤徳夫先生に作成していただいたウェルカムボードが参加者をお出迎えし、香川栄養学園の付置施設であるレストラン松柏軒が埼玉県特産の食材や、女子栄養大学の農園で収穫された食材を使った様々な料理を提供しました。また 30 kg を超えるマグロの解体ショーの後には新鮮な刺身が振舞われました。さらに、菓子工房ブランタンによる色とりどりのデザートや、埼玉県各地の酒蔵で作られた日本酒、そして地ビールなどを楽しみながら、約 200 名の参加者が交流を深めていただきました。



懇親会でのウェルカムボードと JSNA ロゴおよび女子栄養大学マスコットイラスト入りマカロンとクッキー

次回の第 11 回大会は、初めて九州で開催される記念すべき大会となります(会場：中村学園大学、大会長：熊原秀晃先生)。ぜひ日本中から多くの方にご参加いただき、活発な討議と交流を深めあう機会となることを祈念しております。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたり、多くの方々にご支援やご協力をいただきました。ご協賛・ご後援いただいた企業や団体の皆様、ご登壇いただいた先生方、座長や審査をお引き受けくださった先生方には心より御礼申し上げます。また準備にご協力くださいました実行委員の先生方と学生スタッフの皆様、そして運営をお引き受けくださり万全の準備を整えていただいた(有)ヤマダプランニングの皆様と学園を挙げてご支援をいただいた香川栄養学園に御礼申し上げます。



実行委員と大会スタッフ